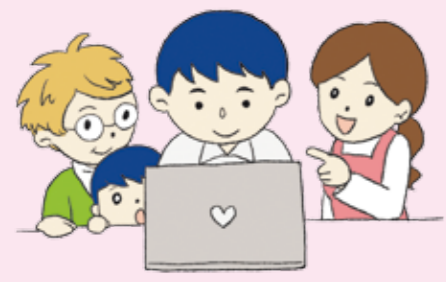


# 身の回りの災害リスクを確認しよう!



## ☑ 災害時に危険な場所を知っておこう



皆さんが暮らしている地域では、災害が発生した際にどんな危険があるのか、あらかじめ把握しておくことが重要です。多くの市町村では、津波、水害、土砂災害などを想定した防災マップを作成しており、各市町村のホームページなどで見ることができます。自宅や学校、職場の周りにどんな災害リスクがあるかをチェックしておきましょう。

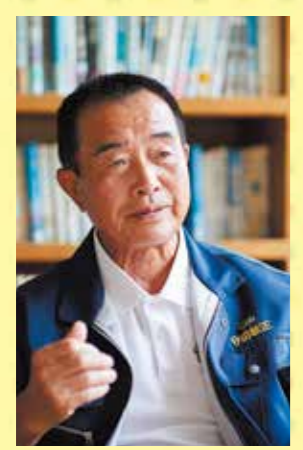


盛岡市防災マップ

## ☑ 避難場所を確認しておこう

津波、水害、土砂災害など、災害の種類によって安全な避難場所は異なります。それぞれの災害が発生した場合をイメージして安全な場所を確認し、避難が必要であれば安全に移動できるルートを考えておきましょう。

## 自分の命を守るのは、あなた自身です。



岩泉町小川(こがわ)地区  
自主防災協議会会長  
岩手県地域防災サポーター  
守田敏正さん

平成28年の台風10号で被害に遭った岩泉町小川地区には、全戸に配布されている『土砂災害これさえあれば』というてびきがあります。これを作ったのは、県の地域防災サポーターで、地元の自主防災協議会会長でもある守田敏正さん。小川地区は地理的条件が一軒一軒違うため、守田さんは約1,000戸にも及ぶ全世帯を回り、個々の家で予想される災害リスクと対策をまとめました。  
「まず必要なのは、自分の家の危険度をしっかり把握し、自分はどのレベルになったらどこに避難すれば良いか知っておくことです。災害の危険を回避するため、一時的に避難できる場所を知っておくことも

必要です。むやみに逃げず、その場に留まった方が安全な場合もありますので、状況を見極める判断力を養うことが大切です」と、守田さん。  
また、自主防災組織についても難しく考えないでほしいと話します。「隣近所で、自力で避難できない人をどのように助けるかを考えれば、やるべきことが明確になる」と強調します。昨年、小川地区では、自力で避難できない人を隣近所で支援する訓練を実施。今災害が起こったら、何ができて、何ができないかを確認し合い、解決策を話し合ったといいます。最近では、地域の中で、普段から防災の話をするようになり、防災意識の高まりを感じているそうです。

# 日頃の備えが いのちを 守る!

平成28年の台風第10号豪雨災害に見舞われた岩泉町安家地区の様子(2016年8月31日 主要地方道久慈岩泉線)



## 積極的に情報を確認して速やかに安全な行動を。

盛岡地方気象台 安斉良悦 台長

最近は、局地化・集中化・激甚化した大雨による、これまで経験したことのないような災害が発生しています。最近10年間(2008~2017)の全国統計を見ると、1時間の降水量が50mm以上(傘が全く役に立たないほどの強さ)に達した回数は、年間平均で約238回。統計を始めた当初の10年間(1976~1985)と比べると約1.4倍に増加しています。

災害時には、気象台から注意報・警報を適時的確に発表していますので、テレビやラジオ、インターネットなどで情報を確認してください。気象庁のホームページでは、お住まいの地域の土砂災害・浸水害・洪水など、危険度の高まりをリアルタイムで確認できる「危険度分布」をお知らせしています。また、大規模な災害が予測される場合には、県が招集する「風水害対策支援チーム」に参加し、市町村が避難勧告などの発令を判断するための情報提供や助言を行なっています。

気象庁の土砂災害・浸水害・洪水「危険度分布」はこちら



**全国で多発する自然災害、万一のときに備えていますか**  
近年、大規模な自然災害が全国各地で発生しています。岩手では、東日本大震災や平成28年の台風第10号災害などが発生しており、全国でも、昨年だけで、北海道胆振東部地震や大阪府北部地震、西日本を中心とした平成30年7月豪雨などが発生しています。  
突然やってくる災害から命を守るために必要なのは、皆さん一人一人の知識と判断です。災害に備えるため、身の回りの災害リスクを知る方法や、持ち出し品、避難訓練などの普段からしておく準備、万一の場場合に身を守るための判断材料となる情報収集などを紹介しましょう。

# 避難情報が出たときは、 速やかに避難しましょう!



## ☑ 気象情報や 被害情報を 収集しよう



気象庁が発表している注意報や警報、今後の気象情報をテレビやラジオ、スマートフォンなどで確認しましょう。また、ほかの地域で被害が発生していないか確認しておきましょう。

## 岩手県の河川情報は、こちらからチェック!

河川の水位、雨量などをリアルタイムで確認できます



岩手県河川情報システムウェブサイト

### 【岩手県河川情報システム】

監視カメラによる画像で、46カ所(36河川)の河川の状況を確認することができます。また、今年5月からは、これまで水位計が設置されていなかった325カ所(260河川)で、洪水の危険が高まっているときに水位を観測する機能に特化した「危機管理型水位計」の運用を開始しました。



岩手県河川情報システムはスマートフォンやパソコンから利用できます

### 【河川水位のメール配信サービス】(無料)

防災・災害情報を電子メールで配信するサービスです。県ホームページから登録が必要です。登録した地区の河川については、避難準備が必要な水位などに達した場合に、メールが配信されます。



登録はこちらから

## ☑ 避難の タイミングを 正しく知ろう

避難情報は5段階の警戒レベルで提供されます。市町村から避難情報が出されたときは、警戒レベルを確認し、避難の対象となった方は速やかに安全な場所に移動しましょう。避難は、「明るいうちに」「早めに」行うことを心掛けましょう。



戸別受信機

警戒レベル	避難行動など	避難情報など
警戒レベル 5 命を守る	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	災害発生情報 ※災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令(市町村が発令)
警戒レベル 4 全員避難	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告・避難指示(緊急) ※地域の状況に応じて緊急的または重ねて避難を促す場合に発令(市町村が発令)
警戒レベル 3 高齢者などは避難	避難に時間を要する人(高齢の方や障がいのある方、乳幼児など)とその支援者は、避難をしましょう。そのほかの人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始(市町村が発令)
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報・大雨注意報など(気象庁が発表)
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報(気象庁が発表)

※各種の情報は、警戒レベル1~5の順番で発表されるとは限りません。また、状況が急変することもあります。

# 普段から 災害に備えておこう!



## ☑ 持ち出し品を 準備して おこう



飲料水、食料品  
(ビスケット、カップ麺、缶詰、チョコレートなど)



貴重品  
(現金、預金通帳、印鑑、健康保険証など)



救急用品  
(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)



ヘルメット、防災頭巾、マスク、軍手



懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器



衣類、下着、毛布、タオル



洗面用具、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ、生理用品、紙おむつ、ミルク、哺乳瓶

※これらは持ち出し品の一例です。家族の状況に合わせて用意しましょう。

## ☑ 安否確認の方法や 集合場所も決めておこう

災害は、家族が別々の場所にいる時に起こる可能性もあります。万一の場合、どのように連絡を取るのか、誰に連絡するのか、家族で話し合っておきましょう。また、連絡が取れない場合に備え、「災害用伝言サービス」の利用方法を確認しておきましょう。



### 災害用伝言ダイヤル(171)

災害時に、固定電話や携帯電話などの番号に、安否情報などのメッセージを音声で登録すると、全国からその音声を再生して確認することができます。「171」をダイヤルし、ガイダンスに従ってメッセージの録音と再生を行ってください。

### 災害用伝言板

携帯電話などからインターネットに接続し、メッセージを文字で登録すると、携帯電話などの番号をもとに全国からメッセージを確認することができます。災害時、通信サービスを行う各社では、公式サイトトップ画面で案内を表示します。

## ☑ 防災訓練に 積極的に 参加しよう



災害時に慌てず、落ち着いて避難するためには、訓練が必要です。日頃から地域の避難訓練などに積極的に参加して、避難の手順などを確認しておきましょう。